

茂原市自主防災組織 連絡会議

事例発表

萩原町自治会の自主防災組織
～設立から現在、そして
今後の課題～

萩原町自主防災会

令和8年1月25日



資料の構成

1. 萩原町の地理・被災リスクの位置付け
2. 萩原町自治会の歴史
3. 自治会・防災会組織
4. これまでの防災活動実績
5. 萩原町防災会の抱える問題点
6. 問題の解決のために

(参考) 防災資材リスト

萩原町の地理・被災リスクの位置付け



萩原町は萩原小学校を指定避難所としている。
 萩原小学校はその他に
 上林南、上林住宅、ダイヤパレス茂原、高師11、12、14、
 高師国野等を対象とする指定避難所となっている。

被災リスクの位置付け 1 (地震)

【地震ハザードマップ】



危険度 Hazard Level	危険度1 Hazard Level 1	危険度2 Hazard Level 2	危険度3 Hazard Level 3	危険度4 Hazard Level 4
地域内の建物の中で全壊する建物の割合 Percentage of Total Collapse	3%未満 0% to less than 3%	3%以上5%未満 3% to less than 5%	5%以上7%未満 5% to less than 7%	7%以上10%未満 7% to less than 10%

※「地域の危険度マップ」の色分けは、全壊率を計算した建物がある箇所(メッシュ)でのみ表示しています。いては、下図の「揺れやすさマップ」および「液状化危険度マップ」をご覧ください。

主要な地震被害の記録

元禄地震 (1703年)：房総半島南東沖を震源とするマグニチュード8クラスの大地震で、房総の海岸に大津波が押し寄せ(海岸から2~3扣まで到達)、甚大な被害を出した。

関東大震災 (1923年)：M8クラスの大地震で、千葉県全体で津波被害を含め1,300人以上の死者を出し、多くの建物が全半壊した。茂原市における具体的な被害の詳細は確認できなかった。

千葉県東方沖地震 (1987年)：九十九里浜付近の深さ50kmを震源とするM6.7の地震で、県内で死者2名、重軽傷者100名超の被害が発生した。茂原市を含む山武・長生地域を中心に、瓦の落下などによる家屋の一部破損が7万棟以上にのぼった。震度5。

東日本大震災 (2011年)：M9.0の巨大地震で、千葉県内では成田市や印西市で最大震度6弱を観測し、茂原市では震度5弱を記録した。茂原市も半壊被害のあった市町村の一つとして記録されている。

被災リスクの位置付け 2 (水害)

【洪水ハザードマップ】



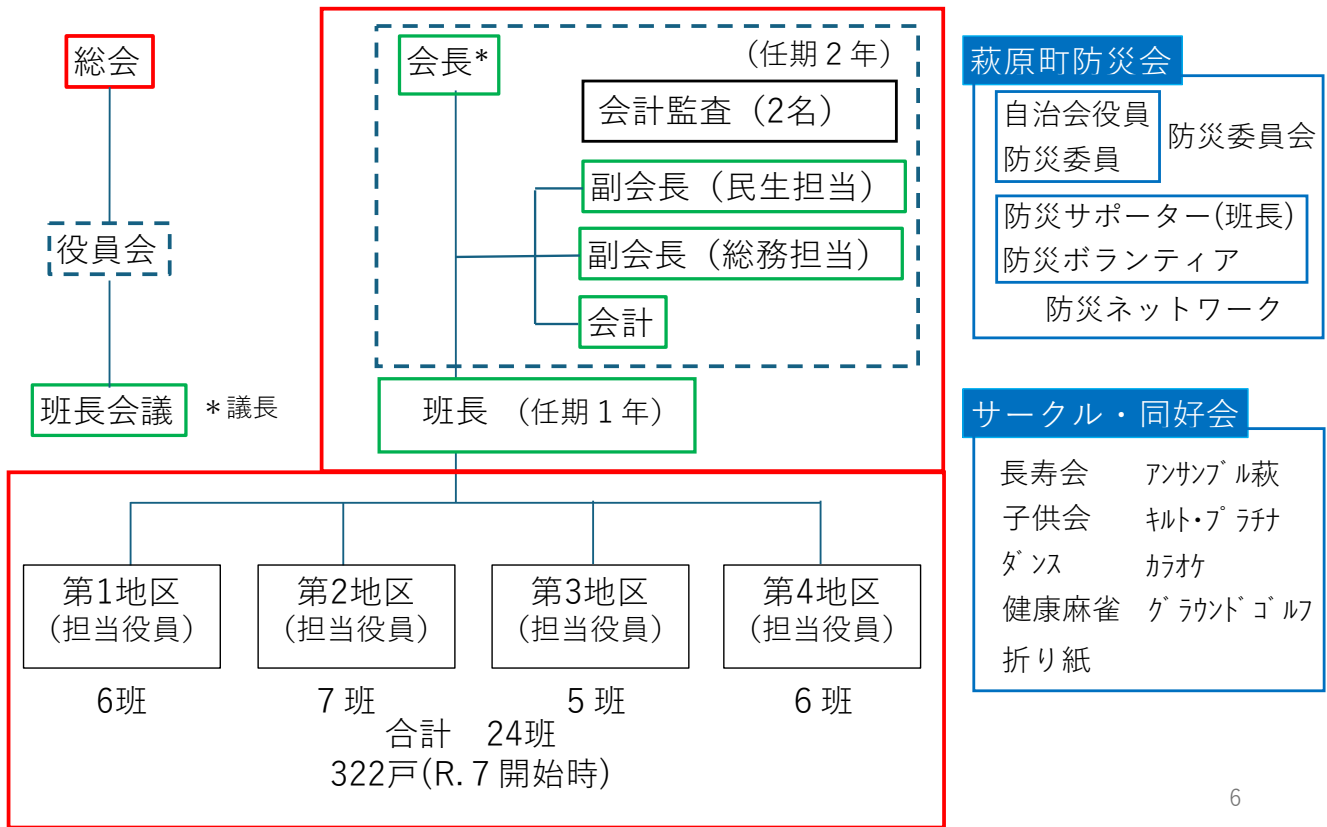
【内水ハザードマップ】



萩原町自治会の歴史

- | | |
|---------------|---|
| 1960年 (昭和35年) | 東京農業大学茂原分校が閉校になる |
| 1963年 (昭和38年) | その地に総区画589区画の団地が完成し、萩原町と名付けて分譲を始める。 |
| 1965年 (昭和40年) | 萩原小学校が開校される。萩原町自治会が79名で結成される。
(去年が60周年) |
| 1970年 (昭和45年) | 長寿会が結成される。自治会加入戸数が208戸となる。 |
| 1973年 (昭和48年) | 萩原交通公園が開園される。 |
| 1975年 (昭和50年) | 青年館 (現集会所) が竣工する。 |
| 1976年 (昭和51年) | 町内盆踊り大会を萩原小学校で開く。 |
| 1981年 (昭和56年) | 下水道の使用が開始される。 |
| 1985年 (昭和60年) | 自治会加入戸数が320戸となる |
| 2017年 (平成28年) | 自主防災組織を立ち上げる議論始まる |
| 2022年 (令和 4年) | 5月萩原町防災会が設立される。10月防災訓練を行う。 |
| 2023年 (令和 5年) | 第1回萩原町ふれあいまつりを開催。 |
| 2024年 (令和 6年) | 集会所の耐震化工事を実施。 |
| 2025年 (令和 7年) | 第4回防災訓練を行う。 |

自治会・防災会運営（組織図）



防災活動実績（1）

2022年

- 5月15日 防災会設立総会 (38名参加)
- 6月26日 防災委員会議
- 7月 9日 防災ボランティア研修会 (座学)
- 7月16日 防災サポーター研修会 (座学)
(防災組織・メンバー・予定の説明)
- 9月17日 防災研修会
(避難所開設訓練、救急法)
- 10月23日 防災訓練 (76名参加)
(避難所開設訓練、救急法)
- 11月12日 防災委員会議
- 11月19日 防災パトロール (24名参加)
- 3月12日 防災委員会議

2023年

- 4月 要支援者名簿に関する意向調査実施
- 4月15日 防災会総会(自治会総会と同日)
- 6月25日 防災委員会議
(要支援者名簿に関する打合せ)
- 7月15日 防災研修会 (45名参加)
(要支援者名簿の共有化)
- 9月17日 防災研修会 (46名参加)
(救命救急法 (AEDを含む) 消防署員指導)
- 10月22日 防災訓練 (27名参加)
(講演、家具の転倒防止などの事例紹介)
- 11月18日 萩小避難所運営委員会避難訓練
(避難時の配置図作成) (15名参加)
- 11月19日 防災パトロール (17名参加)
- 3月10日 防災委員会議

防災活動実績（2）

2024年

- 4月 要支援者名簿に関する意向調査実施
- 4月13日 防災会総会
- 5月15日 萩小避難所運営委員会
- 5月中 集会所の耐震化工事
- 6月30日 防災研修会（47名参加）
（個々の要支援者に対する対応者決め）
- 8月25日 萩小避難所運営委員会
- 9月15日 防災研修会（28名参加）
（避難所配置図作成）
- 11月 4日 防災訓練（81名参加）
（講演：テレビの災害報道～命を守る防災情報）
（黄色いタオルを使った安否確認：183世帯）
- 11月10日 萩小避難所運営委員会避難訓練（避難所開設訓練）
- 11月17日 防災パトロール（10名参加）
- 3月 2日 萩小避難所運営委員会
- 3月 8日 防災委員会議

2025年

- 4月 要支援者名簿に関する意向調査
- 4月13日 防災会総会
- 5月18日 萩小避難所運営委員会
（避難所開設・運営マニュアル作成）
- 6月29日 防災研修会（31名参加）
（要支援者名簿の共有化）
- 9月21日 防災研修会（20名参加）
（倒壊建物からの救助訓練、災対J-指導）
- 10月26日 防災訓練（35名参加）
（講演：過去の災害を振り返り災害対策の原点と課題について考える）
（避難者の受入れ訓練）
（黄色いタオル：122世帯）
- 11月 8日 萩小避難所運営委員会避難訓練（避難所開設訓練）
- 11月15日 防災パトロール（14名参加）
- 3月予定 防災委員会議

8

自治会の主な活動行事

6月第1日曜日
町内一斉掃除

ふれあい
まつり
(3回目)

公園の花植え



2024年10月



2025年10月



2025年10月

9

自治会の主な防災活動行事

防災研修会

(防災委員・サポーター・ボランティア対象)



防災訓練

(全住民対象)



避難行動時要支援者への対応

- 2023年4月に町内の非自治会員を含む全世帯に[アンケート](#)を実施。その後は毎年4月に実施することとしている。
- 2023年8月に社会福祉課と打合せ
- 毎年6月の[防災研修会](#)※で要支援者に対する具体的な支援（なぜ支援が必要で、誰が担当するかなど）について協議
- 毎年7月発行の「茂原市避難行動時要支援者名簿」と自治会独自の集計結果を比較し、自己申告していない住民で要配慮の人を確認

※ 防災委員(自治会役員・民生委員・民生児童委員・長寿会会長・子供会会長)、防災サポーター（班長）、防災ボランティアをメンバーとする

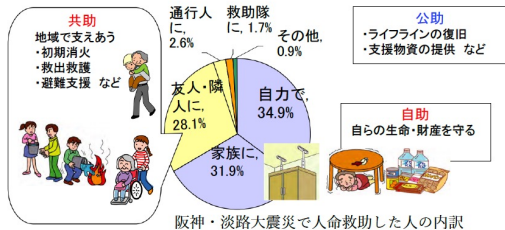
次へ

避難行動「萩原町防災会要支援者名簿」作成について

萩原町自治会会長
萩原町防災委員会会長
細谷 菜穂子

過去の大きな災害では、災害時に家族などの支援が受けられず、自力での避難が困難な方（避難行動時要支援者、以下「要支援者」という）の犠牲が多く見られることから、要支援者が迅速に避難できるための支援体制を整えておくことが必要と言われています。そのため萩原町では災害に備えるべく昨年萩原町防災会が設立されました。

次の図は阪神・淡路大震災で人命救助をした人の内訳を示していますが、発生直後は自助・共助が最も重要であることがわかります。



出典：(社)日本火災学会：兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書

一方で、緊急時に共助がうまく機能するためには、普段からその取り組みが必要になります。要支援者支援の取組は、要支援者を把握することから始まります。今回の調査はそのためのものです。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

※ 萩原町防災会要支援者名簿の情報は自治会役員が適正に管理し、避難支援以外の目的では使用いたしません。

※ 次のページはアンケート用紙になります。提出の際は、必要事項を記載の上、封筒に入れて4月末日までに班長さんを通して地区自治会役員までお願いします。

避難行動「萩原町防災会要支援者名簿」に関する意向調査

次の質問に対し、どれか一つに☑を記入してください。

問1 台風や大雨、地震などの災害時に、家族の皆さんは自力、又は親族などの手助けで、安全な場所まで避難できますか。

- はい（調査は終了です。下記に署名してください。）
- いいえ（問2に進んでください。）
- 施設入所中、長期入院中のため調査対象外です。（調査は終了です。下記に署名してください。）
- （施設名：_____）

* 「はい」、「施設入所中、長期入院中」の場合、避難行動用支援者名簿に登録されません。

問2 避難を手伝ってもらうため、あなたの氏名、身体状況（障害の種別や要介護度など）などを、防災委員、班長、民生委員など避難に関わる関係者に教えても良いですか？

- はい（調査は終了です。下記に署名してください。）
- いいえ（調査は終了です。下記に署名してください。）

* 「はい」の場合、避難に関わる関係者に萩原町防災会避難行動要支援者名簿の情報を提供して避難支援に役立ちます。

しかし、避難に関わる関係者の安全確保が前提のため、避難支援が受けられることを確約するものではありません。

* 「いいえ」の場合、萩原町防災会避難行動要支援者名簿に登録されますが、避難に関わる関係者に名簿情報は提供しません。

* 萩原町防災会避難行動要支援者名簿の情報は自治会役員が適正に管理し、避難支援以外の目的では使用いたしません。

本書を提出される際は署名をお願い致します。

令和6年 月 日

住所

氏名

連絡先（電話・携帯）

戻る

萩原小避難所運営委員会編 避難所開設・運営マニュアル

萩原小学校避難所開設・運営 マニュアル

萩原小学校避難所運営委員会

2025年5月

1 避難所の開設・運営の流れ（【資料4】）

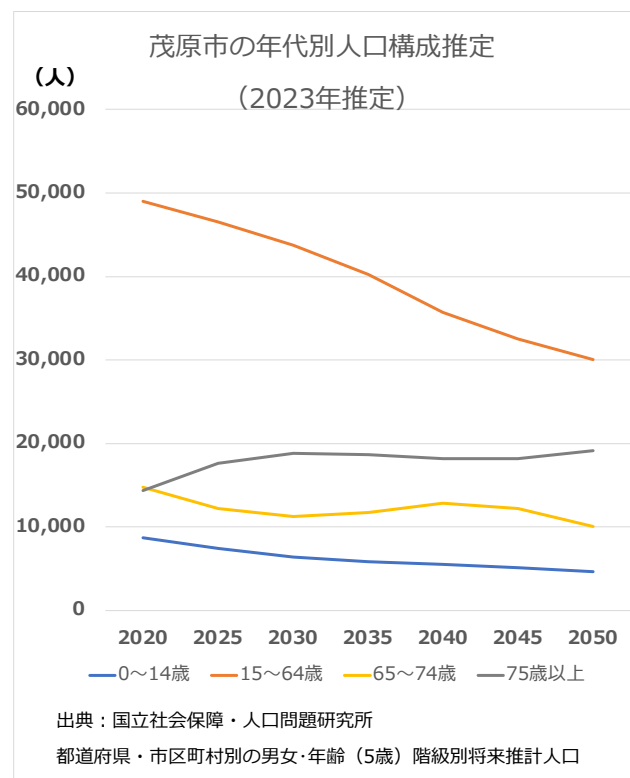
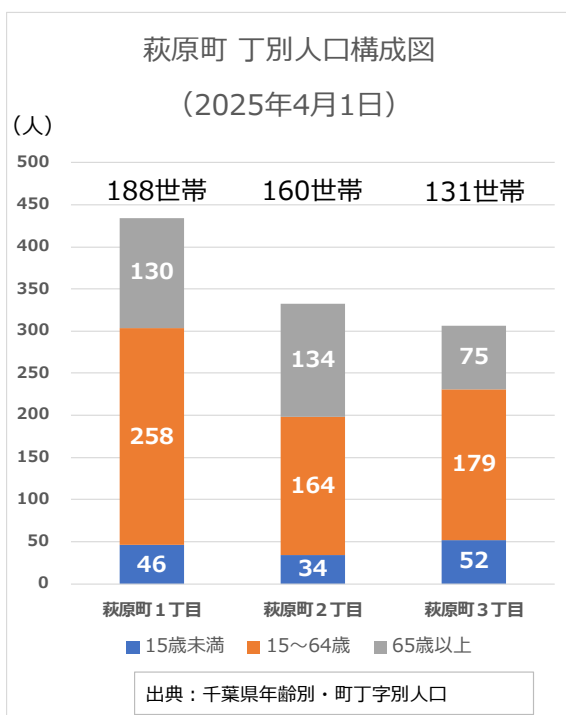
- 1) 施設の安全点検
災害が発生し避難所開設が必要と判断された際（【資料2】【資料3】）は、直近動員職員、施設管理者（萩原小学校校長、教頭）および避難者は「施設被害状況確認票【様式-1】」に基づき施設の被害状況を調べ、避難所として安全に使用できるかを確認します。この際、避難者は建物の安全が確認されるまでは校庭で待機します。
- 2) 避難所の開設準備
直近動員職員、施設管理者および避難者は避難所の開設準備として、避難者を収容するスペースの決定、避難所事務室、避難者受付用の机や椅子等の資機材、「避難所記録簿（避難者カード）【様式-2-1・様式-2-2】」等の避難所運営に必要な資機材の確認、準備を行います。
- 3) 避難所の開設報告、避難者名簿の作成
直近動員職員は避難所開設後、直後に災害対策本部に避難所開設の報告を行います。
直近動員職員は萩原小学校避難所運営委員会や自主防災会、自治会の協力を得て、避難所の受付を開設し、避難者に避難者カード（【様式-2-1・様式-2-2】）を配布します。記入済みのカードは自治会等の単位で取りまとめ、直近動員職員に提出します。
直近動員職員は避難者カードの集計を行います。要配慮者等で医療機関や福祉避難所への搬送が必要な避難者を抽出し、災害対策本部に報告します。さらに被災による要保護児童についても把握します。
全体の「避難者名簿（【様式-3】）」については避難者カードを基に作成します。避難者カードや避難者名簿は個人情報等の配慮が必要のため、保管や名簿の作成は直近動員職員が行います。
避難者がペットを同行して避難した場合は、ペット登録票（【様式-10】）を記載してもらい、ペット管理簿（【様式-11】）を作成します。なお同行避難できるペットは家庭動物等に限り、犬、猫の他に学校等で買われている鳥類、哺乳類、爬虫類に属するものをいいます。
- 4) 避難所運営委員会の設置
避難者が増え、避難生活が長期化することが予想される場合は、避難所の運営は直近動員職員や施設管理者のみですべてを行うことは困難となります。避難所の運営は避難者による自主運営が基本となります。

戻る

萩原町防災会の抱える問題点

- 1.高齢化による防災（自治会）活動の担い手不足
- 2.住民の災害に対する危機感の薄れ
- 3.時代の流れであるが、住民間の付き合いが少なくなっている





1. 少子高齢化～町内の人口構成～



	15歳未満	15～64	65歳以上
萩原町	12.3%	56.1%	31.6%
茂原市	9.2%	56.1%	34.7%

2.災害に対する危機感の薄れ

- 過去に阿久川が氾濫し、樟陽高校を越えて住宅地の一部の駐車場が水に浸かる被害が起きたが、それ以上の災害には見舞われていないので、住民の水の災害に対する危機感は比較的薄い。

千葉日報    

千葉日報オンラインTOP > 県内ニュース > 社会

事件事故 市区町村別 千葉県の天気 選挙 スポーツ 入試 強盗マップ

高校の農場、育てた野菜廃棄に… 大雨で腰の高さまで浸水 台風13号 被災の茂原樟陽高 生徒「すごく悲しい」 実習断念、生徒は畑浄化作業

2023年9月16日 05:00 | 有料記事

台風13号による記録的な大雨は、千葉県立茂原樟陽高校（茂原市上林）の農場にも大規模な浸水被害をもたらした。隣接する阿久川から水があふれ、ガラスハウスや畑が最大で腰の高さまで浸水。生徒が育てた長ネギとトマトは全て廃棄せざるを得なくなった。秋冬野菜の栽培ができなくなり、生徒は浸水した畑の浄化作業に取り組んでいる。

一宮川の支流・阿久川を挟んで敷地が広がる同校では8日、川から濁った水があふれ出すなどし、農場全体の3分の2以上が浸水。農業科の生徒が育てた長ネギやトマト、一部のシクラメンが廃棄処分となった。牛舎の牛約10頭は足が水に漬かった状態で半日を過ごし、 . . .

16

3.隣近所との付き合いの減少

『自治会が抱える問題点は？』（生成AIの回答）

地域活動の衰退と組織の機能不全

かつては地域コミュニティの核であった活動や組織が、参加者不足や高齢化により機能しなくなっています。

- 自治会・町内会への加入率の低下
- 「組」や「班」の機能停止
- 地域の祭りの担い手不足

ライフスタイルの変化と交流機会の減少

住民の生活様式が変化し、意図的に交流する機会が減っています。

- プライバシー重視の傾向
- 共働き・単身世帯の増加
- オンライン・趣味を通じた交流への移行

災害時に助け合えるか？

孤独・孤立の問題と災害時の脆弱性

人間関係が希薄になった結果、深刻な社会問題につながっています。

- 孤独死の増加
- 災害時要援護者の把握の困難
- 子育て世帯の孤立

問題の解決のために

1. 高齢化による活動の担い手不足

- ・ 防災活動やイベント（ふれあいまつり）を通しての参加者意識醸成
- ・ [LINE WORKS（情報共有ツール）](#) 利用による役員の業務負担軽減
- ・ 空き家・空き地への若い世代の転入

➡ [ホームページの活用](#)（アクセス6.4万回、複数回1,943人/'22以降）

2. 災害に対する住民の危機感の薄れ

- ・ 地道な防災活動の継続
- ・ 回覧物などによる住民への情報発信

3. 住民間の横のつながり作りの手伝い

- ・ ふれあいまつり
- ・ 班毎の町内公園の清掃（各班年3回実施）



18

HPを使った萩原町自治会の紹介

[萩原町自治会](#)

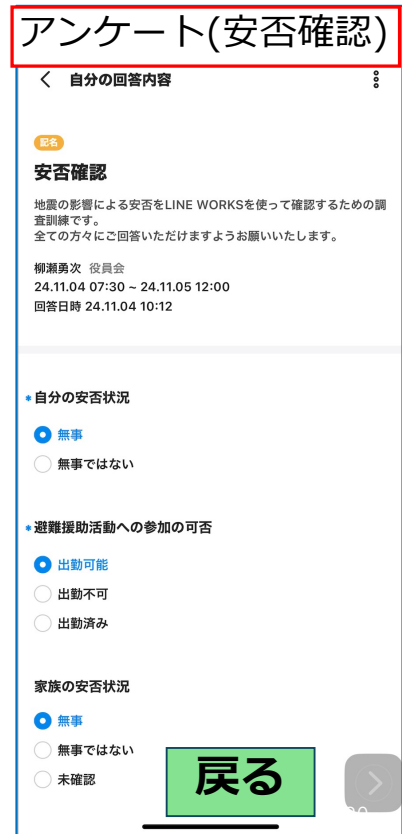
<https://hagiwarachou.main.jp/HP/>



戻る



住民間の情報共有ツールの導入 (LINE WORKS)



(参考) 防災資機材一覧

品名	購入日	
助成資機材一式	2022年	市より提供
発電機 (1台)	2022年	カセットガス式
車椅子 (1台)	2024年	
卓上ガスコンロ (4個)	2024年	カセットガス式

集会所を防災拠点の一つとして使えるように、
今後も計画的に少しずつ整備していきたい